

マイナス成長に落ち込んだ米国経済

ポイント① 4-6月期は大幅マイナスへ

4月29日発表の米国の1-3月期実質GDP（国内総生産）は、前期比年率換算値（四半期の伸びを1年当りに換算した値）で-4.8%と落ち込みました。実質GDPより景気の実情を示すと言われる名目GDPも同-3.5%と、景気後退期間中だった2009年4-6月期以来のマイナスとなりました。

米国では3月13日に新型コロナウイルスに対する国家非常事態が宣言された頃から、各地で人々の行動を制限する措置が強化されました。1-3月期には部分的だったGDPへの影響は4-6月期に強まり、金融市場関係者の中には、実質GDPは前期比年率換算値で-40%程度に急減するとの見方もあります。

ポイント② 年後半の回復は緩やかか

足元で感染拡大ペースが鈍ってきたことから、行動制限措置を緩和する動きが出ています。これにより経済活動も回復し、7-9月期には実質・名目GDPは前期比プラスに転じるでしょう。ただ、感染再拡大懸念もあって制限措置緩和は徐々にしか進まず、今年後半の景気回復は緩やかなものに留まりそうです。

ポイント③ 金融面でのサポート続けるFRB

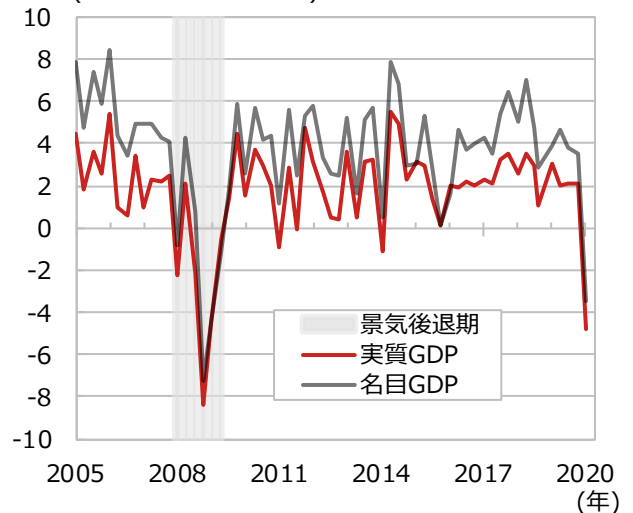
4月28、29日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、既に0%近くまで引き下げられている政策金利を、雇用の最大化と物価の安定が実現する軌道に乗るまで据え置くことされました。

FRB（米連邦準備制度理事会）はこれまでに無制限の量的緩和、コマーシャルペーパーや投資不適格に格下げされたものも含む社債の購入、中小・中堅企業への間接的な融資枠の設定なども決めており、金融面から強力なサポートを続ける姿勢です。

図1：米国の実質・名目GDP

期間：2005年1-3月期～2020年1-3月期、四半期

(前期比年率換算値、%)



(出所) 米商務省経済分析局データより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の政策金利と国債利回り

期間：2015年1月1日～2020年4月29日、日次

(%)



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

5月1日 米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（4月）
5月8日 米雇用統計（4月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。